

会議録(概要版)

審議会等の名称	第9回山口市スマートシティ推進協議会
開催日時	令和4年12月22日(木曜日)10:00~11:30
開催場所	防長苑 2階 孔雀の間
公開・部分公開の区分	公開
出席者	松野浩嗣委員、杉井学委員、中川健一委員、濱田泰委員、大長幹明委員、永久弘之委員、山本庸子委員、会田大也委員、小山文彦委員、鈴木文彦委員、兒玉達哉委員、高田新一郎委員、藤井智佳子委員、田中貴光オブザーバー、須原誠オブザーバー、財間俊治オブザーバー
欠席者	田中光敏委員、松田智生オブザーバー
事務局	山口市総合政策部スマートシティ推進室
次 第	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 議事</p> <p>(1)山口市スマートシティ推進ビジョンについて</p> <p>① 進捗状況について</p> <p>② 分科会の設置について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(仮称)データ連携基盤活用分科会(重点プロジェクト1 関連)</li> <li>・(仮称)最適な移動を実現するまち分科会(重点プロジェクト2関連)</li> <li>・(仮称)阿東スマートビレッジ分科会(重点プロジェクト14関連)</li> </ul> <p>(2)山口市デジタル田園都市国家構想総合戦略について</p> <p>4 意見交換</p> <p>5 閉会</p>
議 事	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶 (会長挨拶)</p> <p>3 議事</p> <p>(1)山口市スマートシティ推進ビジョンについて</p> <p>① 進捗状況について</p> <p>② 分科会の設置について (資料1「第9回山口市スマートシティ推進協議会議事 説明資料」に基づき説明。)</p> <p>(2)山口市デジタル田園都市国家構想総合戦略について (資料1「第9回山口市スマートシティ推進協議会議事 説明資料」に基づき説明。)</p>

#### 4 意見交換

##### 【杉井委員】

資料と説明を聞かせていただいて率直に思ったことが2点あります。

1点目は、すべての動きに関してそうですが、今よく言われている、Society5.0。一人一人の人間が中心となる豊かな社会を作ることを目指すと言われますが、それに大きく貢献する動きではないかと思います。一人一人の人間が中心となるという考え方が、非常に重要だと思っています。これらのプロジェクトを動かすときに、必ず人がいるということを我々は常に意識しながらやらなくてはけないと感じました。例えば、データ連携基盤もそうですが、重点プロジェクト3のところで、ハザードマップ等を作ってどうやってお年寄りに届けばいいのか、利用者にとってどう情報を届けるのかというところまで考えてやらないと、単に作って終わりでは、宝の持ち腐れになってしまいますので、肝に銘じとかなないといけないと感じました。

それともう1点は、このプロジェクトは国際総合科学部で、現在卒論の研究と同じPBLというやり方で、この中のいくつかのプロジェクトに関わっている部分があります。国際総合科学部は、システムの開発にとどまらない、人を中心にした考え方で、地域の課題を解決していくというところに貢献しようとしています。我々もそういうところできちんと力を発揮できるように頑張っていかなないといけないと感じたところです。

##### 【中川委員】

1点、整理したい部分があるのですが、資料1のプロジェクトの部分をご説明いただいて、分科会との関わり方というところが、もう少しクリアになってくるといいのかなと思っています。特にプロジェクト1、あるいは分科会のデータ連携基盤は、サービスを提供するためのプラットフォーム、ビックデータを格納して有効に活用するため、つなぐための仕組みというのが、データ連携基盤になってくると思いますが、そのようなサービスを縦串とするなら、それを横串でつなぐ仕組みがデータ連携基盤になってくると、個々のプロジェクトの進捗をどういう形で把握して、効率的にかつ抜き漏れがなく、市民に刺さっていくようなサービスが展開できるかを考えないといけないと思いますので、各プロジェクトと分科会をどうつないでいけばいいのか気になりました。

また、脱炭素はかなり大きな課題ではありますが、見える化などの観点で、市民の生活プランを目指す形になってくると思います。あとは、脱炭素と言っても、市民の方はなかなか参画できないので、行動変容を起こさないといけないと思います。そういったところのポイントのシステムの連携や、その他の横断的にやっていくようなところをしっかりと検討していく必要があると思っています。

それと色々な登場人物が出てきて、最初のビジョン策定の中では、誰がどのような形で、この仕組みが実現すると、生活が変わってくるのかをペルソナで書いていただいているのですが、それがこの資料はどちらかというと、何ができますという行政ベースになっているので、市民に対してどのようなメリットを享受できるのかを、中間報告のタイミングにでも整理していく必要があると思いました。

【会長】

ありがとうございました。非常に大事なご指摘をたくさんされたと思います。

横申しは必要だと思います。色々なデータも出てきて、それをつなぐ仕組みは必要で、全体をどう統括するかということは、やらなくてはいけないと思います。

これは私の意見ですが、そのような仕組みをスマートシティの推進の中に作っていく必要があって、それぞれの分科会がどのような動きをして何をやっているかということも、把握しないとイケませんし、中川委員が言われたように、データ連携基盤をどう乗せるかということも、その動きを把握しつつ、考えていかないといけないので、私としてはスムーズにできるデジタルツールのようなものを導入するべきではないかと思っています。例えば、今だったらSlackなどのチャットツールもありますが、そういうものを活用すべきではないかという考えを持っています。またスマートシティ推進室と相談しながらいきたいと思っています。

【濱田委員】

先ほど会長があいさつの中で、3月にビジョンができてそれに従って、4月以降にやればよいということになったというお話をされましたが、今日の協議会というのはある意味チェック期間ということで、このビジョンの中に重点プロジェクトと書いてありますが、出てきている内容がそれに合致しているのかというところがいくつかあります。主語は誰か、誰がするのかというところを共有しておかないと、弊社もビジネスとしてさせていただいている部分、これがスマートシティとどれくらい整合性があるかどう目指しているという、お互いに共有するという点については、あまり共有した記憶がない。それが他にもたくさんあるような気がしています。

例えば、プロジェクト2, 3はデータ連携という大前提がありながら、4月から今日までの期間のデータが取れていますか。まだスタートして間もないですが、少し乱暴な感じがして、これが実のあるものになっていくのかと感じています。

後は、最初の会議の時に、国のビジョンなどのお話があった中で、一番大事なものは、市民目線と言われました。杉井委員さんがおっしゃっていましたが、そこに人がいるというところが、市民目線になっているのかというところが、いくつかありましたが、分科会がやっていくのなら、また時間がかかると思います。

【会長】

濱田委員が言われたことは、私も心掛けてやっているところです。市民目線のところについては、阿東で高田さんが関わってやっているところがありますので、高田さんからもその辺りのお話もご発言いただければと思います。人が関わるということを基本に取り組みを進めていくことは大事なことと思います。

【大長委員】

今後の各分科会の進め方と、重点プロジェクトの関わりがどのようになっていくのか、まだよく理解できていないところがあります。重点プロジェクト8にあります、デジタル観光ツアーアプリを活用した新しいサービスの提供のところは、対象者に対する確かな情報を事前に提供していただく取組であると思っています。下のKPIの山口市の文化・芸術・歴史に誇りや愛着を持っている市民の割合の実績値が載っていますが、この数値が高いのか低いのか分かりませんが、取り組みを進めるうえで、より効果を発揮するためには、市民のおもてなしのような、そういった意識の醸成も計っていく必要があるのではないかと思います。違うところでの取り組みになるのかもしれませんが、現在市内の観光管理事業者とも連携をしながら進めておられるとのことですので、是非こういったところも一緒になって進めていただきたいと思います。

#### 【永久委員】

個々のプロジェクトにつきまして、進捗状況をお伺いでき、今日の資料は参考になりました。

人間の個々の要求は様々なものがあって、突き詰めていくとどんどん枝分かれしていき、なかなか本質にたどり着けないというのが、デジタルが苦手な人の諦めの原因ではないかと思いますが、組合には高齢者が多いものですから、予約購買システムというのを立ち上げて、スマートフォンを使って実証試験をしたのですが、70歳以上の高齢の方のほとんどは、話を聞く段階で、私にはできないと言われました。興味がある方、個別的な検索条件を求めている方、デジタルの恩恵が受けたい方、そのような方々は、自分で勉強されて中に入っていけるだろうが、市民全体のおよそ5～6割程度の方は、おそらくデジタルの入り口で拒否反応を起こすのではないかと思います。ですから簡単なもので、自分でたどり着けるような、そういったたどり着きやすいものが前面にあるとみんな食いつきやすいのではないかと思います。

#### 【山本委員】

私の方といたしましては、産業振興財団も含め、DX人材の必要なところのプロジェクト等、仕事で関わることが多いですので、そういったところを注目してしまいますが、DXと言いながら市民目線で、産業人材というところのレベルの方と、産業人材を育成するDXもありますので、人材育成に関してのKPIの指標が、こういったところで人材が育成したというのは、私ども自身にしても難しいと思っています。デジタルが活躍する時代が即興される、リカレントも含めてリスキリングといったところも今後数値が出てくるのかなと思います。産業面でもそういった見える化ができていけばいいと思います。

もう一つは、私も高齢の両親を抱えておりますが、スマートフォンを持っていても一人ではなかなかできません。いくら研修会があったとしても、もう一步踏み込んだ形で教えてあげられるようなところがあれば、私は近くにいるからいいですが、離れて暮らしていらっしゃる方は少し難しいのかなと思います。

【会長】

KPIのことは、どういう風に達成したとみるかというのは、市役所の方から後で話していただきます。

【会田委員】

重点プロジェクトと言っていますが、14個もあればどれが重点なのか分からなくなってきて、正直数が多いなと思いました。14点あるうちのすべてが並列な形で書かれていると認識していますが、実際には並列ではなくて、おそらく重点プロジェクト1が基盤になっていて、それがベースになるのだらうと思っています。一個一個の個別の物に関しては、先進的な取り組みだと思っています。理由は、トヨタ自動車が行っているウーブンシティのようなものに比べても、はるかにローカルな地域にフォーカスしていることです。日本のほとんどの地域が、人口減少局面に、世界的目線から見ても、おそらく人類が経験したことのないような、緩やかに人口が減っていくという中で、どうするのかといったところは、世界が誇れる課題先進国として、それを解決するようなスマートな世の中を探るといのは、非常に有意義なことだと思います。

おそらくKPIというものが、数値目標でしか評価できていないところと、それに取り組もうとしているところが不一致していることに、皆さんが懸念を示しているのではないかと思います。数値だけでは測れないところがあることは、皆さんも思われていることだと思います。これは提案ですが、毎年数値で測れるものはひとつの軸として、物語のようなものがあるのもいいのではないかと思います。人間は具体的なストーリーによって恩恵を理解できる場所がありますので、うまくいった事例のストーリーを拾っていき、いくつも積み重ねていくことで、やったことがすごく有意義になって行くと考えられます。

後は山口市のスマートシティ協議会の取り組みが、専門機関から評価されるということがあっていいと思います。そういった形で、全体的に目に見えるもの以外でも、心揺さぶるような評価や専門家の評価をもらえることで、より具体的な施策のどこに力を入れていくべきかが見えてくると思います。

【小山委員】

重点プロジェクト、14の項目を立てて、山口市をどうやってより良くしていこうかと考えておられることについて、非常に素晴らしく、県の中心であってスマートに運営されていると思います。その中で、私共に関係するところで気になったところがひとつ。

重点プロジェクト2の交通系 IC カードですが、私も東京で生活をしていましたし、私どもが対戦する相手方のチームは日本全国にありますので、そのチームを応援しに来られる方の多くは、新幹線から鉄道を使って大歳駅を利用されますが、大歳駅では交通系 IC カードを利用できないことが、来シーズンは色々なトラブルを生むだろうというところが心配であります。そういうところが普通に利用できるようなになればいいと

思います。他のプロジェクトについても勉強をして、経験を生かした意見を出せていけたらと思っています。

#### 【鈴木委員】

分科会が設置されるということで、最適な移動を実現させるまち、重点プロジェクトの中でも移動というのは、重点していただけたのかと思う一方で、それなりの責任を感じております。先ほど会長からも話がありましたように、とかくアプリを作って満足しているようなところは、実は非常に多くて、今全国で Maas の議論は色々進められています。おそらくその半分くらいはなんらかのアプリを作って終わりか、それで満足している状態でとどまっているのではないかと考えています。ここに例えばタクシー業界において検討している共同配車システムの導入あたりのことが書いていますが、これもシステムを作って終わりではなく、それが本当に機能し、市民のためになるよう構築するように議論を進めていかなければならないと思います。その時の難しさとして、実際に携わっている交通関係の業界は人や担い手がいない問題を抱え、コロナで非常に減収が著しいという問題を抱えており、非常に厳しい状況の中での取り組みになりますので、ここに携わっている人たちが今後も担っていけるように考慮しながら進めていかなければならないと思います。

それと同時に、これまで交通に関して私なりに取り組んできたつもりですが、それが市民の方に知られていない部分もありますので、やったことをちゃんと知ってもらえるような仕組みも作っていかないといけないと思っています。データをきちんと活用する仕組みを作ったら、それをちゃんと使ってもらえるような入口づくりや使いやすさなども併せて考えていく必要があると思います。

もう一つは、新潟でも大雪で停電が起こっていますが、そのような状態になった時のバックアップの仕組みをどう作っていくかということ。後はシステムダウンの恐れもあるので、昨年を見ても、銀行や通信設備でもシステムダウンは起きているので、緊急時に何らかの対応ができる程度のアナログのノウハウを伝えていく必要があるのではないかと考えています。

#### 【児玉委員】

情報発信、いかに迅速に情報を伝えていくか、災害の時のプロジェクトがありますが、いかに住民に情報を伝えていくか、適切に情報を発信し、市民活動の情報をもとに適切な行動につなげるということが大切なのかなという感じがしました。

重点プロジェクト3の逃げ遅れ“ゼロ”プロジェクト、重点プロジェクト11のスマート“ライブ”シティを支える拠点づくりは、地域に密接に関わってきますので、地域と一緒に進めた取り組みが重要になってくると思います。

中川委員が言われた、住民の行動変容につながる考え方は非常に重要だと思いますし、市民生活がどう変化したのかという部分の記述がこれから必要になってくると思います。

KPIは、これで市民の行動変容がわかるかと言ったらそうではないので、これは総合計画の中で設定をされていますが、市民生活がどう変化していったのかという部分が少し見えるようにしたほうがいいと思います。

【高田委員】

私は阿東で取り組みをしています、阿東では特に高齢化が進んで、高齢者が多いですが、高齢者の皆さんがどのような暮らしをされているか、暮らしに寄り添った形でデジタルがどのように使えるのかというのを主にして取り組みを進めています。

皆さんが求めているのは、コミュニティがしっかりしているということだと思います。先ほどもありましたが、すべての電源が落ちて機能が使えなくなったとしても、つながりがあれば非常時に助けに行くこともできます。ただ人が減って高齢化が進むと、日常のコミュニティの維持が難しくなってきます。デジタルの技術をうまく使うことによって、それを意識していくことができないか。高齢者の皆さんは最新の技術を求めているわけではなく、暮らしに寄り添った今まであったコミュニティが、高齢化や体が不自由になったり、人が少なくなったりすることで、抜け落ちていくところを必要な技術を使ってつなげていくことができないかという指導をしています。分科会の資料にもありましたが、簡単なIoTセンサーを高齢者が使えないかということで、先日も企業の方がきて、皆さんに触ってもらいながら、色々な意見を拾われてフィードバックしていく。そうするとそれを作ろうとしている技術者の視点では、気が付かなかったことが高齢者の方から聞くことができています。高齢者の生活に寄り添った形のデジタルの使い方をスタートさせることができればと思っています。

もう一点、重点プロジェクト7の中の健康づくりのところで、実際に高齢者の方にウェアラブル端末をお渡しして、11月から健康データを取得していますが、アプリを作った企業さんの視点だと、うまく使えていたとか、きちんと実証できましたと言われますが、実際に阿東のような山間部の高齢者の方が使うと、なかなかうまく使えないということもたくさんあります。この場で皆さんと一緒に考えていきたいのは、どこの企業さんもビジネスとして色々なアプリを作って持ってこられますが、実際に使う人の状況にあった形で入れていかないと、押し付けでやると取った数値も意味がないのではないかと。できるだけそれぞれの地域の状況にあった市民目線で、企業やアプリの選定をして、山口市が先頭を切って発信できるようにすることで、最終的には市民の皆さんに対して恩恵があるのではないかと痛切に感じています。

【会長】

ありがとうございます。阿東地域での取り組みは私も少し関与しておりますので、コミュニティがしっかりしていますし、トイトスイッチも阿東に住んでおられる方が作られたものです。エンジニアの方が入ってきています。私や大学も関わってやっています。ある意味このスマートシティで凝縮した形で動いているということですので、いずれ何かの機会に取り組みをご披露していただけたらいいと思っています。

【藤井委員】

私の方からは、7ページの親が元気に活躍するまちプロジェクトで、この「やまここ」という子育てアプリも皆さんがおっしゃる通り、アプリを作って終わりになっているような気がしています。このアプリは、地域の子育てイベントという検知があるのですが、9割方は保健センター主催の相談情報の掲載だけで、月に2, 3件とか、5件程度です。私の経験上、地域の子育て情報は、月に100件以上あって、その情報を自分で取りに行き、整理して把握するという結構大変な作業なんですけど、そのような人の努力といったものを感じません。けれどこの KPI を見ると、子育て世代の負担軽減をはかったように書いてあるので、これでいいのかなど。よくないのであれば私は何をしたらいいのだろうと皆さんにお聞きしたいです。

もう一つはプロジェクト4の中に、保育園の空き状況だったり、入院手続きのオンライン化、ファミサポのデジタル化、親同士のコミュニティづくりなどもありました。もし今日お話を聞けるなら、その進捗も、3月にビジョンが確定して9か月も経っているので、もしかして実行するのに困難な事柄があったのかとか、一行も書いていないので、お聞かせいただけたらと思います。

【会長】

ありがとうございます。今のことについて最後に市役所の方から回答いただければと思います。

オブザーバーの皆さんにも意見を頂戴したいと思います。

【田中オブザーバー】

今日は皆さんからご意見がありましたが、市民目線でどうやっていくかとか、KPIの数値の話が出ていたと思いますが、市民目線については、やり方としてはデザイン思考で、市民の方々中心で、どう取り組みを進めていくか、そういうものをもっと積極的に、例えば各プロジェクトの中で活用しながら課題解決に向けた解決策を市民の方々も交えて取り組んでいくみたいなことをより活性化できると、市民の皆さんの意見を収集しながら解決できる取り組みになるのではないかと思います。

KPI のところは、昨年度を含めた KPI の話になっていると思いますが、最近デジタル田園都市国家構想の話の中でも、指標を活用していく話も出てきて、その辺りも含めて検討されているのではないかと思います。実際に人、いかに幸福度や価値を表現していくかという観点で、Well-being みたいな指標的なところをうまく把握しながら、山口市版で作成すればいいのかなと思いました。

【須原オブザーバー】

資料の20ページのところで、分科会の設置の検討をいただきました。本当にありがとうございます。

集中してまずは3つということを上案として出されたと思います。第2期山口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の中で、政策が5つあったと思います。政策1として、あらゆる世代が健やかに暮らせるまち、子育て健康福祉のところ。政策2で、学び 暮らしを楽しむまち、教育・文化・スポーツ。政策3で、安全安心で快適に暮らせるまち、安全安心・環境・都市。政策4で、地域の魅力があふれる産業と観光のまち、産業・観光。政策5で、市民と共につくる自立したまち、協働・行政。もし可能でしたら、分科会をこちらに沿う形で軸をつけていってはどうかと思います。

今、まさに阿東でやられるということで、政策1を阿東スマートビレッジの分科会で小さく作って広げる。政策2に関しまして、まだ分科会は考えられていませんが、Jリーグがあるスポーツや教育のまち分科会みたいなものがあつたらと。皆さんからすると、山口の素晴らしさが当たり前になっていると思いますが、県庁所在地であって、大学があつて、Jリーグがあつて、温泉があるというのが、全国にどれぐらいあるか。ほぼないのではないかと思います。

あと、できれば今後、暮らしのところの分科会のメンバーは女性比率を80%~90%くらいにしていきたい。例えば今回出席している我々委員ですが、委員長を含め16人、女性2人、12.5%。まちの中では、女性の方が長寿ですので、実は女性の方が多いということも考えて。実際に子育てや介護など色々なことをしていく中で、一番頼ってしまうのは女性の方なので、女性比率を上げて、本当はこういう方がいいというようなディスカッションができるような体制ができると良いと思います。

政策3の安全安心は、山口市さんの方でやっていただいている。

政策4の地域の魅力あふれる産業と観光のまち、こちらのほうは、私の勝手なアイデアですが、湯田温泉の魅力を市民と分科会という形でやっていく。私は今、青学の研究員、後は大学の教授と一緒に、レノファ山口の方と湯田温泉料飲組合の方との取組で、レノファのサポーターのネットワークに乗った形で、取組を始めています。市民と共に作る自立したまちというところを、データ連携基盤でやっていければ面白いかなと思います。

杉井先生が言われた、誰がやるのかというところ。これはとても重要だと思います。私も2年くらいこのまちに出入りさせていただいて、山大の杉井先生の生徒さんとぶつかることが多いです。学生さんがこういった分科会に参加するチャンスを作る。山大は文科省の文系DX人材の育成で、山口大学、山口県立大学、山口芸術大学など日本に数少ない大学郡です。そういったことも、先ほど高田さんが言われたように、ここで作ったものをみんなに発信するものができるのではないかと思います。

#### 【財間オブザーバー】

KPIについてですが、ここで使うKPIは性格が2種類あると、皆さんのご意見を聞いて感じました。

一つはやっていることを市民の皆さんに知ってもらうという意味で、そのためのKPIとして、会田委員がおっしゃられたストーリー性の話だったり、市民生活がどう変

わるかというような表現の仕方と、もう一つは、民間でプロジェクトをやっていると、必ずPDCAを回しながら実施していくはずで、必要であれば修正をしながら、もしかしたらスクラップしなければいけないプロジェクトもあるかもしれないし、作り直すという観点も必要かもしれない。その時にベースになるのがKPIで、今羅列されているKPIで足りるかという、感性的な指標が多いので、全部を否定するものではありませんが、これではゴールに合わせた内容をちゃんと表現できるような数値、定量的なKPIがプロジェクトには必要なのではないかと思います。具体的に言えば、重点プロジェクト10だと、「地域産業・経済活性化」となっているので、市内の企業の付加価値額がどのくらい上がったのかなど、目的に合った数値的なKPIが必要なのだと思います。

もう一つですが、長期目線で言うと、プロジェクト1のデータ連携基盤(分野横断)型にビックデータを活用、解析しているということですが、先ほど実施しているプロジェクトでデータを取っているのですかというお話がありましたが、おそらく個々のプロジェクトごとにデータを収集していくと思いますが、収集の目的が、時代や技術の進歩に合わせて、連携の仕方によって変わっていくと思います。その時に徹底的に運用していくと、柔軟性のある運用をしていくようにしないといけないと考えると、情報の取り扱いをいたずらに恐れるのではなく、第三者的な評価機関を置いたほうが、後々柔軟に運用できるのではないかと思います。

#### 【会長】

これで皆さんご発言いただきまして、いくつか質問事項がありましたが、市役所の方から答えられるものがあれば答えていただきたいと思います。

#### 【事務局】

大変貴重なご意見をありがとうございました。大きくご指摘として2つあったと思いますが、一つは分科会の役割と、もう一つは人を基準とした目標というのをこれから研究していくべきではないかというところだと思います。この2つについては関連すると思っています。どういう基準で分科会を作ったか、というところになりますが、先にご説明させていただいたように、このビジョンに位置付ける重点プロジェクトについての具体化が進んだものから設置していくという形をしています。今、スマートシティを進めていく中で、技術的なものは事業者さんが持っていらっしゃる。アプリを入れて終わりではいけない中で、導入した後にどれだけ市民目線に立って、裾野を広げていくのかを考えるのが一番大事なところだと思います。

それともう一つ、これはデータ連携基盤のことになりますが、いかにいろんな事業を接続して、データを集めていけるようにしていけるか。ただ初めにありましたように、すでにこのビジョンを作る前から進んでいる事業があります。これについては、そういう目線で事業をしていなかったこともありますので、そこについては今からどのように修正して連携をさせていけるのかということを考えるのが、分科会の役割だと思っています。そうしたことから、とりあえず3つを提案させていただけたらと思いま

す。

そういった中でこれまで話がありましたように、市民目線は大事だと思っていますので、これについても重点プロジェクト7の元気いきいきプロジェクトということで、ウェアラブル端末をつけて健康を促進することになっています。これについてもシステムを導入する企業様とは別に、地域にどう溶け込ませるかという部分については、NPO 法人トイトイに別に委託を出しています。その関係もあって、今、高田委員さんにも苦勞していただいているところです。やっぱりこのシステムがあるということだけではなくて、それをいかに高齢者の方に使ってもらえるのかアプローチをして、どういふところまでなら使ってもらえるのかというところを今取り組んでいるところです。これからどういふふうに評価してやっていくのかが、もうひとつの目標になってくると思います。やはり市全体の数値ではなかなか計れないところはあるだろうと思っています。実証の中でやってみてどうだったかというストーリーという形で評価をすることも今後考えてみたいと思います。これは対象のある地域に限定したからこそできる示し方だと思っています。

もう一つは、第三者評価をしていただく上で、数値も必要になってきます。この辺りは、総合計画を作っている関係もありますので、そちらの数値で表れる部分もあると思います。すべてがスマート推進ビジョンの数値という形ではなくて、スマート推進ビジョンと他の計画と相まって、その他の分野も含めての数値になると思いますので、お示しの仕方として、総合計画のKPIを設けていますので、またビジョンとはまた別にお示しさせていただくことも必要になってくると思っています。

#### 【会長】

2つポイントがあって、一つは分科会のこと、もう一つは評価、KPIで、このことについて、もう少し議論をさせていただきたいと思います。

分科会を設置してやった方がいいのではないかと思われた方もおられるのではないかと思いますので、そのことについて、どなたからでも発言いただければと思います。

#### 【A 委員】

委員の皆さんの意見を伺いながら考えたことが、評価についてですが、私はスマート技術やスマートシステムを作って、評価でまず最初に考えるのが、利用者がスマートと感じたかどうかです。スマートだと感じられたら失敗だと思っています、本当の意味でのスマート技術というのは、利用者が分からないうえで、なにか便利になっているのが、スマート技術やスマートシティだと思います。私はいつもスマートと感じましたかと聞く、そのうえで評価をしなくてはいけないのですが、質的評価と量的評価はなかなか難しく、現状では決められないと思っているが、これを決めていかないとけない。その時に思ったのが、これは ODA で使うような大きなプロジェクトかもしれませんが、分科会単位かプロジェクト単位で、プロジェクトデザインマトリックスのような

ものを作ってみて、それに加えて、成果指標、活動指標をどう設定して、それが何から求められるのかというものが、マトリックスの表を埋めていくうえで出てきますので、いったんそういうものを作ってみると、成果指標も出てくるのではないかと感じました。これは私からの提案です。

#### 【会長】

今日、全体の流れの中で評価のことが出ておりまして、確かにこのプロジェクトのところにKPIが書いてあって、これを達成していかないといけないと思いますが、これをやったからといって、市民の皆様の生活がよくなったという訳ではないということだろうと思います。うちの大学もやる時は、KPIの設定もして、その仕組みがなかなか大変ですが、この数値は数値で達成できるように工夫をするとして、先ほどのお話で、市民生活がどう変化したかということですよ。これをやったことで行動変容が起こって、もちろんいい方向にいかないといけません、それをどう測定するのか。後は、財間さんが言われていました、ゴールに合わせた評価をすべきではないかということですが、そのひとつの方法論が、今、A委員が言われたことなのかという感じですが、この評価方法を第三者評価を取り入れたらどうかという話もありました。これについては、継続して検討をしていければと考えますが、どうですか。具体的には私や役所に引き取らせてもらって、考えて手を打つというやり方もあろうかと思いますが、何かご意見があればお願いします。

#### 【B委員】

評価の話とプロジェクトの進行の絡みになりますが、ビジョンの段階ではプロジェクトの名前が並んで、フローチャートのほうから上がってきたと思いますが、今日のこういった資料は、本当に紐づいているのかが気になっています。官主導、民主導、官民主導が混在している。ビジョンができてそれに基づいてスタートしていますが、その段階でフィルターがかかっていない。フィルターというのが、指標や評価ことですが、弊社もお手伝いしています、プロジェクト12で言うと、公式LINE。公式LINEは2年前からスタートしていますが、利用者がどう思っているか、ビフォーアフターで出てこない指標にはならないと思います。それをPDCAで意見をもらって改善していく。私は官主導で進んでいると思っていますが、スマートシティというビジョンを成功させるためには、こういったところを変えないといけないと思います。

先ほど藤井さんが言われていた「やまここ」が使えないというのは、市民の声での評価です。こういう評価ができること自体が、何らかの対策をPDCAでうたないといけない。これをゼロベースに戻すのは簡単ですが、そうではなくて、これをどう改善するのか、どう次のステップに行くのか。答えを私生活へ導いていくことが普及にもなるだろうし、山口市版の「やまここ」になっていき、スマートシティの成果のひとつにもなると思います。

【会長】

官の視点の評価ではなく、市民の評価をいれるべきだということですね。分科会のほうについて、こういう分科会を設置したらどうかというご意見がありましたらお願いします。

【C 委員】

分科会にするのがいいのかどうか分からないですが、何をもって評価するのかというのがかなり重要なポイントになってきていると思うので、評価自体、練りこんでいくようなものを分科会的に考えるのはどうか。分科会ごとに分かれていってしまうと、評価もバラバラに並べていってしまうこともありえると思ったので、せっかくスマートシティ推進協議会ということであれば、統一的なある水準に達している評価を設ける方法もあるのではないかと思います。

【会長】

なかなかやるとなると大変だと思いますが、そういうのは必要でしょうね。どういふふうに項目を設定していくのか、調査から始めていくので。ただ、大事なことだと思います。

【C 委員】

最初の頃に高田委員が言われたと思いますが、阿東地域でアンケートを取ったら不満はなかったという結論が出たと。要は、都合のいいデザインができていた訳です。

【会長】

それについて、先ほどデータ連携のところに合わせてだったと思いますが、それぞれのプロジェクトの全体を見ていく仕組みも必要ではないかということもあったと思うし、その中で全体的な評価をどう測るのかということだと思います。

D 委員は、子育てでママさんがたくさん活動されているところに入ってやられていますが、市民の目線からの、ここでいう分科会みたいなものはどう思いますか。

【D 委員】

先ほどお伝えしました「やまここ」の件に関して、担当者が実際使って本当に納得したのかというのを強く思うのと、市民目線で発言させていただくと、ワークショップで市民から意見を吸い出して、いい意見が出て結果、何も反映されていないことが多いです。反映されるのであれば、分科会当事者たちの意見を聞いてということはあるかと思います。

【E オブザーバー】

私は全国のこのような集まりに出させていただきますが、先ほど発言させていただきました、女性比率について。先ほどD委員が言われましたように、意見を聞くが、聞いたという結果だけ出して終わりという形だけで終わります。ただ、色々な自治体の方と会っていると、自治体の方々の立場も苦しいということが分かる。例えば今回のことも、スマートシティの推進委員会だが、別に山口まち・ひと・しごと創生があって、他に基本計画があって、部署が違って、それぞれ何か決まっていて、各それぞれの担当は分かっているが、一緒にできないということもあると思います。そういった面も含めて、先ほど言いました、分科会議を下の実行のところ。今回皆さんがお作りになったところで一番嬉しいなと思ったのが、20ページの基本目標5をスマートシティの構築に向けた検討等にしていただいていたので、このところを分科会で、実際に当事者、原課の方と一緒に進めていただければと思っています。課長さんでなくてもいいので、新人研修でもいいので、その人がちゃんと入っていて、常に窓口の人も入っている形で動いていただく。新しい山口ならではのフォーメーションを組んでもらって、KPIもいろんな数字を集める苦労はあると思いますが、ユーザーからの集計をNPOなどの力も借りてデータを取っていただき、体制をうまく組んでいただけたらと思います。

#### 【会長】

D委員が言われていたことですが、山口市のスマートシティは元々が市民のためにやるということですので、そういう目線はないと私は思っています。必ず市民のデータを集めてそれを活かすという方向でやるのが基本路線なので、それは守っていかねばいけません。これは共有されていることで当然のことだと思っていますので、やりっぱなしということはないだろうと思います。

Eオブザーバーが言われた原課というのは、課のスタッフの人という意味ですか。

#### 【E オブザーバー】

そうです。担当の課です。政策課は政策を作るところで、実行部隊が別にいる訳です。例えば講演をしますと言った場合だと、田園都市構想というのは、大平内閣の時に出来上がったものにデジタルをくっつけたもので、霞が関では実は、デジタルが中心ではなく、国土交通省が中心になっています。基本計画というのが、どの市町村にもありまして、それが10年になっている。それが岩に書いたような形になっていて、どこも変えられないという事情がある中、ダボス会議において「グレートリセット」が2020年、2021年に出ていて、それ以前に作ったものは、本当は意味がありません。だけど、日本だけの変えられないという状況が実際に出ている。結局法律に縛られてしまっているの、実行部隊にも話が行っていない、建前行政なので。その実行の窓口の人などもいるので、申請をする窓口の人が入っていたり、話を聞いている状況にしてあげないと、役所内のコミュニケーションがとても難しい。みんな取りたいけど、取れない。私も一度、子どもを連れて移住しようかと考えたことがあり、話を聞いた時

に、色々な情報をくれるが、結局はスタンプラリーになってしまう。そういうことも含めて、現場の方にも入っていただくのは、とても重要ではないかと思いました。

**【会長】**

それは私も大事だと思っていて、そのやり方として、先ほども言いましたが、コミュニケーションツールを導入して、分科会でそのチャンネルを立てる。それに役所の人も入っていて、その動きが見えるようにする。全体を統括する人もいるようにして、それがデジタルの上で資料のことも含めて、全部把握できるようになるので、その導入をまたスマートシティの方とまた相談してもらえればと思います。

今日は色々な話が出ましたが、まず、評価を含めて、全体を把握することがひとつテーマとしてあったかと思っています。それと分科会の設置、または今の分科会の運営のこと。それから評価のこと。この3つについては検討を続けさせてもらって、まずは役所と私が、次に副会長の杉井さんと検討をさせてもらって、それをなんらかの形でフィードバックしないといけないと思うのですが、会議は年1回と決まっているのですか。

**【事務局】**

いえ、最低年1回ということです。

**【会長】**

必要な時にやれるということですので、そのタイミングについても計らせてもらえたらと思います。

何か全体を通してご意見はありますか。それでは事務局にお返しします。

**5 閉会**

**【事務局】**

本日は様々なご意見をありがとうございました。まだビジョンができて実質1年目ですので、色々な課題があると思っております。これからは皆様のご意見をしっかりいただきながら、色々な形で、ご意見を事務局やスマートシティ推進室のほうに投げかけていただければと思います。一生懸命対応したいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは今日の協議会は終わりたいと思います。ありがとうございました。

**配布資料**

**次第**

資料1 第9回山口市スマートシティ推進協議会議事 説明資料

(スマートシティ推進ビジョンについて、山口市デジタル田園都市国家構想総合戦略について)

資料2 委員名簿

資料3 配席図

問い合わせ先

総合政策部 スマートシティ推進室  
TEL 083-934-2728